

## ※ 今週のアウトトラック (6/4~6/8)

先週は木曜日まではドル売り中心の展開となりましたが、米国雇用統計の結果が予想を上回り、その後はドルの買い戻し为中心となりました。

今週は、米国雇用統計の好結果がどの程度影響していくかを、まずは見極める必要があります。

先週ドル円は108.5円付近のレジスタンスを破り、107円付近まで下落を示唆するような動きとなりましたが、米国雇用統計の予想外の好結果により、金曜日のNY市場では一気にドルの買い戻しが進みました。

今週は米国雇用統計の好結果がどのように受け止められるかをまずは見極める必要がありますが、NY市場の後半ではドルの買い戻しがあまり進まず、再びドル売りの流れに戻る様な気配すら感じられました。このような状況から、一気にドル高反転という流れへの期待は少し難しいかもしれません。

ドル円の予想レンジは108円から111.5円です。

ユーロ円は先週、ユーロドルが1.15付近のサポートでなんとか支えられている状況から125円付近から折り返し、128円付近まで上昇してそのままNY市場を終了しています。

今週は、このまま130円付近を目指して買い戻しが進む可能性がやや高いように思いますが、米国雇用統計の好結果を背景に、ドル買戻しに拍車がかかってしまった場合には、再び125円付近のサポートを破ろうと知る動きが活発化するかもしれません。

ユーロ円の予想レンジは125円から130円です。

ポンド円も143円付近のサポートラインに支えられ、146円台まで戻して終了しています。今週は、ドルの買い戻しが活性化しなければ、148円から150円付近を目指す、買い戻しが優勢となる可能性が高そうです。

ポンド円の予想レンジは143円から150円です。

今週は米国雇用統計の好結果が市場にどう受け止められていくのかが、まずは第一の注目となりそうですが、それほど影響を及ぼさなかった場合には、再びドル売りの流れに逆戻りしてしまう可能性もありそうです。

## \*免責事項\*

当レポートを参考にトレードを行い、損失が生じた場合でも、責任は負いかねますのでご了承ください。